

# ミステリ読書案内

2019. 12. 4 発行元

第4号 伊藤 剛

## 西村京太郎 ベスト表

次は西村京太郎。私にとっては、私の人生と共に歩んできた作家。そう！新書判ノベルスの時代を切り開き、その歴史を背負い続けてきた人である。今も現役を続けている。是非、長生きしてほしいと願っている。

### 《西村京太郎作品のベスト表》

1. 寝台特急殺人事件
2. 殺しの双曲線
3. 終着駅殺人事件
4. 夜行列車殺人事件
5. ミステリ一列車が消えた
6. 日本一周「旅号」殺人事件
7. 夜間飛行殺人事件
8. 東北新幹線殺人事件
9. 赤い帆船
10. 特急さくら殺人事件
11. 消えた乗組員
12. 発信人は死者
13. 四国連絡特急殺人事件
14. 消えたタンカー
15. 寝台特急あかつき殺人事件
16. 下り特急「富士」殺人事件
17. 寝台特急「紀伊」殺人行
18. 伊豆七島殺人事件
19. 名探偵なんか怖くない
20. 消えた巨人軍
21. 名探偵に乾杯
22. 超特急つばめ号殺人事件
23. 名探偵も楽じゃない
24. 神話列車殺人事件
25. 七人の証人
26. 名探偵が多すぎる
27. D機関情報
28. 北帰行殺人事件
29. 炎の墓標
30. 東京駅殺人事件
31. 札幌着23時25分
32. 寝台特急「北陸」殺人事件
33. 北能登殺人事件
34. オホーツク殺人ルート
35. 京都感情旅行殺人事件
36. 上野駅殺人事件
37. 十津川警部の挑戦
38. 特急北アルプス殺人事件
39. 天使の傷痕
40. 寝台特急「銀河」殺人事件

以下、延々と続く。なにしろ600冊あるのだから。40位まででも1割にもならない。まだまだ上位に挙げたい傑作が目白押しになっている。

### 全著作600冊を超える！

昨年、著作600冊記念が出た。世界的に見ても、これほどの多作家は少ない。日本で、西村に比肩するのは赤川次郎しかいない現状。

600冊の著作のうち、短編・中編のアンソロジーが、さまざまな出版社から、さまざまな形で出されているので、実際はダブリ収録作品が多い。それを整理すると著作総数約510冊が、より正しい集計数のような気がする。

私の現在の西村京太郎の読書冊数は505冊で、未読として確実にチェックしている本はあと5冊程度になる。(エッセイ・ミステリ以外の作品を除く。) 一人の作家だけで、私のミステリ読書総数の約5%を占める量なのだから、それだけでもたいしたものである。

### 初期作品は力作揃い

西村というとトラベルミステリの代名詞のようにになっているが、実際は、トラベルミステリ開始以前の一番の初期の頃の作品に傑作・力作が多い。

右のベスト表では、一応、『寝台特急』を一番に据えたが、私としては『殺しの双曲線』が代表作かなと思っている。『名探偵…』シリーズと並んで、本格物ミステリとしての味が色濃く表れている。『赤い帆船』

や『消えた乗組員』などの海洋ものも西村らしい特徴がよく出ている。

### トラベル・ミステリ・シリーズ

トラベルミステリというか、『十津川警部もの』と言った方がわかりやすいのか……。西村の代表的なシリーズ。『十津川警部シリーズ最新刊！』と本の帯に書くだけで売れ行きが違うのだろうかと思うりもする。

右のベスト表にも多数入っている。初期の十津川ものは安定したレベルである。地図が入り、時刻表が入り、アリバイ崩しにしても緻密な構成で、読み応えがあった。

### 最近の作品は……。

最近も十津川ものは一年に数冊出ている。1930年生まれ。今年で89歳。「これは、すごい！」と言うしかない。乱歩賞を受賞した『天使の傷痕』が1965年だから、そこから50年以上である。今も西村本人は「書かずにはいられない」と言っているとのこと。

最近の作品は、同じパターンの繰り返しに近い…。まるで、東野圭吾の『超・殺人事件』に描かれたパロディ状態そのもの。作者も編集者も読者も、「今度の作品も大傑作だ！」。すっかり似たようなストーリーでも十分に満足。読めるだけでありがたいという気分。

**最近の作品** 『阪急電鉄殺人事件』祥伝社ノンノベルス 880円 『飯田線・愛と殺人』光文社カッパノベルス 820円 『十津川警部・スーパー北斗殺人事件』双葉社フタバノベルス 850円 『上野-会津百五十年後の密約』文芸春秋社 980円 『えちごトキめき鉄道殺人事件』中央公論新社 840円 『十津川警部・坂本龍馬と十津川郷土中井庄五郎』集英社 880円 など